



風土

笹間に吹く風と土との出会い

～住民が自ら立ち上がり実現する「地域おこし」～

平成23年、過疎化の進む笹間地区（以下「笹間」という。）で初めて開催された「国際陶芸フェスティバルinささま」の成功は、笹間の住民たちが歩むべき道を考える機会となりました。地域活性化のために立ち上がる笹間の取り組みや姿勢などについて、歴史や地域性を踏まえて紹介します。◎文化課 ☎46・2344

笹間と国際陶芸フェスティバル

笹間地区は、旧笹間小・中学校の廃校に見られるように、過疎が進んできた地域です。過疎化の主な要因は一般的に、仕事を求める若い世代の人口流出と残っている人も高齢化などの理由で、都会で働く子どものもとへ移り住むケースが多くなり、さらに過疎化が進みます。ここ笹間においても、それは例外ではなく、同様の問題を抱えてき

ました。この笹間を活性化させる目的で開かれたのが国際陶芸フェスティバル（以下「陶芸フェス」という。）であり、それを呼び掛けたのが愛知県に住む陶芸家の道川省三さんです。10年以上前、金谷地区の知人の所で穴窯を作り、そこで出会った人に笹間を紹介されました。笹間の雄大な自然や温かく迎えてくれた住民の心の優しさに、大きな感銘を受けた彼は、この地の過疎化の現実を知り、地域振興のために陶芸フェス開催を住民たちに提案したのです。「世界を代表するお茶の生産地に、世界を代表する陶芸家が集結するイベントは、これまで



広報しまだ

Shimada

2013
10
vol.184

目次 — CONTENTS —

- 2 笹間に吹く風と土との出会い
- 12 私たちの市民病院
- 14 景観計画を策定しました
- 16 市の財政状況
- 18 まちの話だい
- 19 島田髷まつり
- 20 住民アンケート結果(概要版)
- 21 文化課通信
- 22 しまだ情報
- 28 島田市の「ゆるキャラ」紹介
- 29 第56回 島田市民文化祭
- 30 暮らしのシグナル
- 31 スポーツ INFO
- 32 友好のかけはし
- 33 図書館だより
- 34 けんこうナビ (11月)
- 40 便利帳／彩りもう一品
- 42 掲示板／みんなのひろば
- 44 しまだ人：松島和徳さん

表紙 — COVER STORY —

伝統芸能の「笹間神楽」は、舞台に立つ日を夢見る地域の子もたちへと受け継がれています。



笹間に吹く三つの風

(1) ささまで生まれた風

笹間地区に代々住んでいる人たち

(2) ささまにやってきた風

笹間地区に移り住んだ人たち

(3) ささまと共に歩む風

笹間地区の地域振興のために協力してくれる地域外の人たち



国内の若手陶芸家

例を見ない企画です。昔からお茶と陶芸は『湯のみ』で結ばれている仲。『You know me』を合言葉に情報発信して、地域振興につなげたいんです」と意気込みを語る道川さんは、「ゼロから地域の皆さんと積み上げることに意味があります」と、あえて陶芸の文化がない笹間での、ゼロからのスタートにこだわりを持っていきます。それは「よそ者ではない自分」として、地域に溶け込んだからこそこのこだわりでした。

風を形作った「笹間に吹く三つの風」

道川さんの呼び掛けで開催された、笹間と世界との交流を促す陶芸フェス。当日は、土砂崩れの影響が懸念されたにもかかわらず、2000人を越える人でにぎわい、国内外に笹間を発信することができました。その成功に、道川さんの影響力が強かったことはもちろんですが、笹間に関わる人たちによって生み出された「行動力」「結束力」「協調性」といった地域力が発揮されたことも要因でした。

この笹間に関わる人々たちを、自然が豊かな笹間らしく、三つの風に分類することができま

まれた風」で、歴史的な背景によって地域に行動力を生んだ、笹間に代々住んでいる人たちです。二つ目の風は「ささまにやってきた風」で、笹間を守りたい意識で地域に強い結束力を育む機会をもたらした、笹間に移り住んだ人たちです。三つ目の風は「ささまと共に歩む風」で、手を差し伸べて協調性の大切さを示してくれた、笹間に協力してくれる地域外の人たちです。

陶芸フェスは、笹間に吹く三つの風と土（陶芸）を引き合わせて風土となり、笹間に活気を呼び戻し、住民が自ら立ち上ることに對する自信と希望を与えてくれました。

来月、2回目の陶芸フェスが開催されます。どのようにして笹間に行動力・結束力・協調性が生まれたのか、2年ぶりの開催に向けて準備を進めている笹間の人たちの声を聞きながら、探っていきます。

道川省三



愛知県瀬戸市を本拠地とする陶芸家。国内外で展覧会を開催し、世界を舞台に活躍中。

地域を守るための行動力

周 辺の地域を支えながら 栄えてきた歴史

笹間は、周辺の地域を支えながら栄えてきた歴史を持っています。石上城趾から分かるように、南北朝時代（1336年～1392年）には徳山城（川根本町）の支城として栄えました。戦国時代（1493年～1590年）には、駿河国の支配下で今川氏や武田氏を支えるなど、城主の石上氏が代々守ってきました。

江戸時代（1603年～1868年）に入ると、東海道の裏街道として知られる「笹間街道」が開かれ、辺り一帯は宿場や問屋が集中し、東西を結ぶ拠点になりました。笹間の伝統芸能で、駿河神楽の流れをくむ市の指定文化財（無形民俗）の「笹間神楽」は、笹間街道における物流が盛んになったことにより、静岡市黒俣地区から伝わったとされる説もあります。石上城趾や笹間街道は、住民たちが周辺地域を支えつつ、愛する笹間を守ってきた地域であることを、今に伝えています。

伝 統を受け継ぐための 行動力

地域の伝統芸能となった笹間神楽は、戦後の混乱期に消滅しかけましたが、昭和43年に地元青年団（のちの保存会）を中心に伝承する活動が始まったことで、その危機を脱しました。昭和52年には、笹間神楽が旧笹間中学校の教育活動に取り入れられ、地元の子どもたちにも伝統芸能が伝えられるようになりました。同中学校が廃校になった今でも、この教育は川根中学校に引き継がれています。地域を守りたい意識が、この行動力を生み出したのです。

行動力は、過疎化の進んだ現在の笹間にも見られます。旧笹間小学校が廃校になるとき、跡地の利用方法について住民の間で議論がなされました。校舎の取り壊しも選択肢の一つでしたが、地域活性化のために、住民が自ら運営する体験型宿泊施設として、残すことを決めました。これも住民たちの笹間を愛する気持ちと、守りたい気持ちから生まれた行動力です。

笹間神楽を若者たちに継ぐ

笹間には、^{かみ}上・^{なか}中・^{しも}下の三つの地区にそれぞれ青年団がありました。このうち、私が所属していた上地区が、笹間神楽を伝承することになりました。神楽には「舞・笛・太鼓」という役割りがあって、私は笛を担当したのですが、あの頃は実演を見る機会が少なく、覚えるのにと



笹間神楽保存会長
坂田修實さん

でも苦労しましたよ。それでも何とか板についた頃、旧笹間中から生徒への神楽の公演をお願いされ、笛を披露したのです。これをきっかけに、翌年から教育の一環として、生徒たちに神楽を教えることになりました。この指導が功を奏し、教えを受けた子たちが大人になって笹間に戻ってきては、保存会に入ってくれました。しかも、基礎ができていたので、上達も早かったです。伝承という意味では、大きな効果でしたね。廃校後も、この教育は川根中学校に引き継がれています。この子たちが将来、立派に舞うことを、今から楽しみにしています。

「ささまで生まれた風」は、地域を守るために行動を起こしました。この行動力で、地域の活性化を目指します。



①② 笹間神楽 ③ 川根中生徒の練習風景

伝統



森づくりS川根・NPO
副理事長
ねぎしひさし
根岸久さん

集まる場所を残したくて

僕ら笹間の住民は「地域ぐるみ」を大切にしています。そのため、笹間小学校が廃校になるとき、建て物を体験型宿泊施設として利用することを考えました。子どもが減り、高齢化の進んだ笹間では、自分たちの活力源になる子どもたちのマラソン大会に住民が応援に駆け付けるなど「人が集まる場所」として

笹間小が地域の中心になっていました。そんな子どもたちの元気な声を笹間小に残すためにも、地域ぐるみで運営する体験型宿泊施設を望んだのです。それで開設されたのが「山村都市交流センターささま」です。人とのつながりを大事にする笹間だからこそこの選択だったといえるのではないのでしょうか。あれから5年が経ち、交流センターでのイベントが、地域に浸透し始めました。今では、私たちの経験を、訪れた子どもたちに伝えてあげたいという気持ちが強くなっています。今後につながる実績を残し、地域が一体となって、次の目標に向かっていきたいです。



石上城跡（笹間上）



笹間川

みんなが好きな笹間

もりかみだいすけ
森上大輔さん

笹間を離れた友達の中にも「将来的には笹間に戻りたい」と言う人もいます。ここからは静岡市も近いので、道路などのインフラ整備で利便性が良くなれば、きっと若者も帰ってきます。みんな、笹間が好きなんですから。

みさこ
美沙子さん

少し歩けばヨモギや野イチゴ、天然ハチミツなんかが入ります。地域の皆さんも、おいしい食材を分けてくれるなど、優しく接してくれます。少し遠くても、地域外の友達と行き来していますし、何の不自由も感じていません。

森上夫妻と長男の
ゆうき
悠希くん（1歳）



若者の元気を呼び込む結束力

「ささまにやってきた風」は、笹間の魅力を知る存在。彼らを受け入れた地域の結束力が、さらなる魅力を作り出します。

移り住んできた人たちは笹間の宝

住み慣れた土地を離れ、新しい土地に移り住むには、何らかの理由があります。その理由は入学・就職・結婚・転勤などさまざまですが、どの場合であっても生活環境が大きく変化する「人生の分岐点」。それ故、移住には当事者の決断と将来への希望が伴います。笹間にも、この決断をして移り住んできた人たちがいます。彼らの移住にも、それぞれ理由があり、何かを求めてやってきました。

過疎化の進む笹間にとって、移住してきた人たちは宝です。それは、単に人口が増えたというだけでなく、移り住む決断をさせた「笹間の魅力」を知っているからです。また、将来に向けての希望を持ってやって来たため、地域を愛する気持ちと守りたい気持ちを強く持っているはずで

移り住んで来た人の声を聞くことは、地域の魅力とともに、住んでみて気付いた他の地域との違いなどを知る機会です。そ

れは、過疎地の課題や改善方法につながる手がかりになります。自分たちの地域の魅力を知れば、それが誇りになり、地域の欠点分かれば、それを補ったり、逆にそれを生かした新たな魅力を作り出したりすることもできます。こうして代々地域に住む人と移住してきた人が連携し、地域全体が強い結束力で結ばれるのです。

若者を呼び込む活動で育まれる結束力

笹間の住民が運営している「山村都市交流センターささま（旧笹間小学校）」では、学生などの合宿の受け入れや、スポーツ少年団などの団体向けの体験教室を提供しています。そこでは、若者の元気な声を地域に呼び込むため、ピザ窯を作ったり、目玉となる食事のメニューを考案したりするなど、いろんな意見を取り入れながら、ささままなことに挑戦しています。この取り組みは、地域の目指す方向を明確にし、住民の結束力を一層強くします。



山村都市交流センターささまの食堂で味わう手作りピザ

連携

笹間と歩む人々たち

笹間は結束力で挑戦します



ピザ窯の先生
さいきとみお 齊木富夫さん

調理師免許を手に、全国を転々としていましたが、30年前、桑の山にあった釣耕苑（庄屋民宿）の管理・運営を任されたのが縁で、家族で笹間にやってきました。

釣耕苑は移転しましたが、私たち家族は笹間に残りました。理由は、子どもにとって最高の環境だったからです。地域の皆さんの優しさや愛に包まれ、先生との距離も近い。転校なんてさせられませんね。子どもたちは、たくさんの支えを受けて成長できました。皆さんには、感謝の気持ちでいっぱいです。

笹間では、たくさんの方に訪れてもらえるように、交流センターの体験型宿泊に力を入れていきます。他にはないものを取り入れようと、竹飯なども開発しました。私が担当するピザ窯も、地域みんなの手作りなんです。よ。これからも結束力で、いろんなことに挑戦していきます。都会では味わえないホッとする時間と空間を、ここ笹間で堪能してください。

守られている自然と風土



移住して9年
もちだゆうこう 持田雄剛さん

「自然の中で静かに暮らしたい」そんな思いだけで計画らしい計画もなく、笹間へ移住してきました。笹間の皆さんは、とてもおらかな方たちで「よく来てくれた」と笑顔で迎えてくれました。また、夏祭りや運動会、文化祭など、たくさんイベントに誘っていただきました。いつも多くの方が声を掛けてくださるので、そのたびに心の温かさに感動しています。

「何世代にもわたって受け継がれてきた歴史があるからこそ、守られている自然と風土。ゆったりと時が流れ、季節の移り変わりを肌で感じ、うまい水や空気を独り占めできる」こんな素晴らしい所に住ませてもらえていて、幸せに思います。

庭で四季の花を楽しみ、趣味の「木の実人形」作りに没頭。また、地域のボランティア・グループの活動を通じて、会話や交流を楽しむなど、笹間を一杯満喫させてもらっています。



木の実人形

人の温かさに触れる地域



三世代で移住
おがさわらやすし 小笠原靖さん

古民家・田舎暮らしに興味があった私は、前の会社の退社に合わせて、4年前に神奈川県から妻と息子の三人で越してきました。

全く知らない土地で多少不安はありましたが、地域の皆さんが温かく迎え入れてくださったので、すぐに消えました。帰りが遅いときに洗濯物を取り込んでくれたり、自分の畑で取れた野菜を分けてくれたりしてくれる。近所さんには、いつも頭が上がりません。父親の病気のことでもあって、2年前から両親もここで暮らしています。昨年11月には二人目の子が生まれ、今では三世代6人が地域の皆さんに支えられています。

移住当初2歳だった息子は、自然の中で遊びながら、たくましさや身に付けてきました。来年4月からは小学生です。学童保育やファミサポのない川根での子育てに不安もありますが、人の温かさに触れることのできる笹間での生活を、これからも続けていきたいと思っています。



ピザ窯



しまだガンバ!

協調性を生かした地域づくり

「ささまと共に歩む風」は、地域振興を願っています。笹間は彼らの協力を得て自ら立ち上がります。

地域おこし協力隊

ささまの田舎力を世界に向けて発信

2年前の陶芸フェスには、通訳ボランティアで参加しました。開催直前に会場へ向かう道で土砂崩れが発生したにもかかわらず、笹間の皆さんの知恵と工夫でなんとか開催できました。あの陶芸フェスをとおして、笹間が持つ「田舎力」は世界に誇れるものだなと感じました。自然の美しさと併せて、世界に発信していきたいです。今回、地域おこし協力隊として参加できることをうれしく思います。笹間の魅力が詰まった陶芸フェスに、ぜひ遊びに来てください。



みちかわわたみ
道川綿未さん

子どもたちの「第二・第三のふる里」へ

私は以前、川根地区に滞在したことがあり、お世話になった方々と親戚のような仲になりました。また、ニューツーリズムで体験型観光のプランニングを担当したこともあって、ぜひ「川根の強み」を生かしたいと思っていました。地域おこし協力隊は、その機会と考えています。現在の目標は、子どもたちの「第二・第三のふる里」になるような教育体験旅行を実現させることです。陶芸フェスには、お手伝いで参加しますので、たくさんの方とお話したいと思います。



しまだまほ
島田真帆さん

各地で取り組まれる地域振興策

最近「地域おこし（地域づくり）」という言葉をよく耳にします。地元の地場産品や観光資源を全国に発信するための、ご当地グルメやご当地キャラクター（ゆるキャラなど）もその一つで、テレビや雑誌などでも見かけます。全国の至るところで、こうした地域新興策が講じられているのです。笹間でも、山村都市交流センターささまの運営など、地域振興のためにさまざまなおことに挑戦し、少しずつ成果を上げてきています。

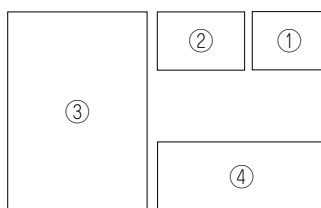
陶芸フェスは新しい形の地域のづくり

陶芸フェスも、地域が取り組む地域振興策です。前は初めての開催で、準備段階では住民の多くが戸惑いました。また、陶芸と縁のない土地での開催に、違和感を持つ人も多くいました。しかし、笹間の地域振興を願う道川三さんの真剣な眼差しが、住民たちの共感を呼び、

開催日が近づくにつれ、徐々に行動力と結束力が発揮されてきました。それは、彼と地域の間で育まれた協調性によって引き出されたもの。その結果、陶芸フェスは大盛況となり、ここに地域外のひととの協調性を生かした、新しい形の地域づくりが確立されました。

ほたる窯が笹間の大きな目玉

来月開催の陶芸フェスに向けて、新たに地域おこし協力隊の協力を得て準備が進められています。今回は、多くの人に陶芸に興味を持って訪ねてもらえるよう、新しい取り組みを取り入れました。その代表的なもの、地域住民が親しみを込めて名付けた「ほたる窯」。これは、住民たちの手で作った穴窯で「自分の作品を笹間で焼く」という陶芸教室の大きな目玉になります。このように、地域外の協力者との協調性で得た地域の自信は、住民たちに夢を抱かせ、積極的に関わる気持ちを芽生えさせました。



①穴窯づくり②火入れ③陶芸教室
④参加者の作品



陶芸教室の参加者



やまぎしひろあき
山岸廣吉さん(川根町笹間上)

「94歳にして、初めて陶芸に挑戦してみたよ。すごく楽しいし、長生きして良かったと思います。上手にできたら、ひ孫たちに見せたいと思います」



きたじまけいこ
北島敬子さん(川根町笹間上)

「陶芸は今日で3回目です。教室を地元で開催してくれるので、ありがたいと思っています。今後も、みんなと楽しみながら続けていきたいです」



みずのしんや ようこ
水野慎也さん・容子さん夫妻(静岡市)

慎也さん「連休に楽しめる所を、インターネットで探して参加しました。途中、どんな物を作ろうかと道の駅でいろいろ見てきたんですよ」
容子さん「皆さん、プロ並みの素晴らしい作品で、ビックリしています。陶芸フェスティバルにも、ぜひ来てみたいです」

新たに築かれる風土

土と出会った笹間に吹く三つの風が重なり合い、より強い風となりました。それは同じ目的で同じ方向に向かって吹く大きな「ささまの風」。その風は、土と出会ったことで笹間に地域活性化の基盤を築き、この地に新たな風土を形成していきます。



地域住民の意欲が改善の鍵

地域活性化を簡単に成し遂げる方法はありません。そのため、地域の実情に合った振興策を講じ、それを持続させ、地道な改善を進めていくことが必要になってきます。改善の糸口は地域によつて異なりますが、どの場合でも、地域住民の意欲が不可欠であり、改善に向けての鍵になります。

例えば、過疎化の深刻な地域では「なんとかなるさ」という言葉には分かんない」という言葉がよく聞かれます。このような言葉は、地域の現実を受け入れたくなかったり、地域外の人との関わりを避けたりするよう、後ろ向きな考えから生まれてく

るもので、そこに活性化への意欲はありません。これでは、一層の孤立化を招き、過疎化の悪循環に陥ってしまいます。

地域住民が活性化への意欲を持つためには、まず自分たちの状況に向き合い、過疎化などに対する危機感を持つことが大事になってきます。危機感から「何とかしなければ」という考えが地域全体に広がったとき、行動力と結束力が生まれてきます。笹間でも、旧笹間小・中学校の相次ぐ廃校が危機感になり、活性化への意欲を持つきっかけとなりました。

また、行動を起こすためには、自分たちの地域が持つ特性や魅力を知ることが大切です。そのためにも、地域外の人たちをよそ者扱いせず、彼らの意見に耳



「一つの目標」に向かって吹き始めた



を傾けることも重要になってきます。

自ら表舞台に立ち笹間を発信する風土

「陶芸フェスの活気を地域の活性化にどうつなげていくべきか」という前向きな考えを持つようになった笹間には、不安や迷いはありません。あるのは地域の活性化につなげたいという強い信念だけ。この信念が、笹間に代々住んでいる人、笹間に移り住んできた人、笹間の地域振興のために協力してくれる地域外の人を結び付け、同じ目標に向かわせました。それは、そ

れぞれが信じる方向に流れていた風が、同じ方向に向かう一つの強力な「ささまの風」になったことを意味しています。その風に乗った住民たちは、自ら主人公として表舞台に立ち、笹間を国内外に発信していきます。こうして、一步一步着実に目標に近づくことで、地域活性化の基盤を築き、笹間に新たな風土を形成していきます。

改善への意欲が地域全体に浸透し、住民が主体となった地域おこしを実施することができるとき、笹間のように活性化への道が開かれます。地域の未来である子どもたちのため、手を取って風を起こしましょう。

第2回 国際陶芸フェスティバル in ささま

① 11月22日(金)

とき/午後1時～5時

ところ/川根文化センターチャリム 21

内容/オープニングセレモニー、アートディレクター道川省三氏によるパフォーマンス「創奏空間」、招待作家シンポジウム「世界の陶芸事情/世界からみた日本の陶芸」

② 11月23日(土)祝・24日(日)

とき/午前10時～午後5時

ところ/山村都市交流センターささま ほか

内容/9カ国10人の招待作家によるワークショップ・スライドレクチャー、世界的な陶芸作家ニーナ・ホールによる巨大オブジェ焼成、国内外陶芸作家の作品展示・販売、ワークショップ「アートポット」、ふるさとハイキング、ささま食堂、地場特産品・陶芸用品の販売